

1

【主の導きの中を】

主の導きの中を 私たちは進む
主の臨在をあおいで 進み続ける

昼は雲の柱で 夜は火の柱で
主は私たちを導く
主は私たちの前を進みゆく
昼も夜もいつまでも

【ただ一つの願い】

ただ一つわたしの願い求めは
主の家に住まうこと 命の限り

うるわしき主を仰ぎ見て
主の宮に住み 主を思う

【主の愛が今】

主の愛が今あなたをつつむ
うたれた傷も癒される
主の愛が今あなたをつつむ
なげき悲しみ逃げ去る

傷ついた主の愛の手が動き
あなたの上にとどまる
全能の主の 愛の手がつつみ
あなたの心を癒される

【慕い求めます】

イエス 愛します 愛します 心注ぎ
ただ あなただけ 慕い求めます
溢れる 溢れる あなたを慕う思い
みそばに引き寄せて主よ 慕い求めます

5

祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り ピリピ4の4~7
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り 詩篇51
3. 個人的な願いの祈り ヨハネ15の7
4. とりなしの祈り 1テモテ2の1~4/エペソ4

- ①大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ②瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ③クリスチャンが成長し、整えられ、用いられますように
= 教会員が恵まれて、礼拝・祈祷会・奉仕・献金・伝道ができますように
- ④求道者が与えられ、救われますように→受洗者
- ⑤教会近隣の方が集われますように
- ⑥若い献身者が与えられますように
- ⑦ジョイキッズとユースの働きが充実しますように
- ⑧高齢の方々の方フォローが十分になされますように
- ⑨Seto Life Art Studio が用いられますように
= ウクレレ・キッズ英語・ゴスペル・モンテッソーリ教室・音楽ミサなど
- ⑩50人→100人→200人と教会が成長しますように

5. 日本と世界とエルサレムの平和を願って...

- ウクライナとロシアのために。戦争が終わるように。
- 日本の今後・未来のため。教育・経済・国際情勢。

信仰宣言

- 「私の家族は全員救われます」
- 「日本にはリバイバルが始まっています」
- 「私も用いられます」
- 「すべての問題は解決します」
- 「することなすこと、みな成功します」
- 「私のまわりには奇跡が起こります」
- 「すべてのことを感謝します」
- 「イエス様と一緒にですから」
- 「ハレルヤ主よ感謝します」

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899
牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



祈りの小径(こみち)

Number: 169 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

2

今日の聖書のことば

ゆづり読んで黙想しましょう。

出エジプト記17章8～16節

8 ときにアマレクがきて、イスラエルとレピデムで戦った。9 モーセはヨシュアに言った、「われわれのために人を選び、出てアマレクと戦いなさい。わたしはあす神のつえを手にとって、丘の頂に立つであろう」。10 ヨシュアはモーセが彼に言ったようにし、アマレクと戦った。モーセとアロンおよびホルは丘の頂に登った。11 モーセが手を上げているとイスラエルは勝ち、手を下げるとアマレクが勝った。12 しかしモーセの手が重くなったので、アロンとホルが石を取って、モーセの足もとに置くと、彼はその上に座した。そしてひとりはこちらに、ひとりはこちらにいて、モーセの手をささえたので、彼の手は日没までさがらなかった。13 ヨシュアは、つるぎにかけてアマレクとその民を打ち敗った。

14 主はモーセに言われた、「これを書物にするして記念とし、それをヨシュアの耳に入れなさい。わたしは天が下からアマレクの記憶を完全に消し去るであろう」。15 モーセは一つの祭壇を築いてその名を「主はわが旗」と呼んだ。16 そしてモーセは言った、

「主の旗にむかって手を上げる、
主は世々アマレクと戦われる」。

Moses built an altar there and named it

יְהוָה נִסִּי Yahweh-Nissi

(which means “the LORD is my banner”).NLT

民数記6章24～27節

24「願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。25 願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように。26 願わくは主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜わるように」。27 こうして彼らがイスラエルの人々のために、わたしの名を唱えるならば、わたしは彼らを祝福するであろう」。

3

黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

4

みことばの解説

主の御名を唱えるならば祝福されます！民6:27
唱える、とは、「置くこと」です。私の家族に、私の私生活に、私の人間関係に、私の職場に、親族に、主の名を置いてください！そう祈りましょう。神様は約束を必ず守られます。ここまで

- (1)ヤハウエ・イルエ(主は備えたもう)
- (2)ヤハウエ・ロフェカ(主は癒したもう)
と学びました。今回3つ目となる主のお名前は…

《ヤハウエ・ニシ》出エジプト17章15節

主はわが旗/ わが標準・支え/わが信号/わが合図/
我らの集結地点 rallying point
(史実と重ねて「勝利」と訳される場合も)

前回もそうであったように、

神様の御名は、物語の中で現わされます。前回飲む水がないとつぐやいた民は「ヤハウエ・ロフェカ」なる御名の力を忘れてび文句を言い出すのが出エジプト記17章の前半、いわゆるメリバの水事件です(メリバとは反逆の意)。しかし、神は忍耐深く、憐み深く、民を養い育ててゆきます。次なる試練は、アマレク人との奇襲でした。彼らは荒野で弱っていたイスラエルに突如攻撃を仕掛けてきたのです(申命記25章参照)。それは、長年にわたる憎悪が原因でした。アマレクは、イサクの息子(エサウとヤコブの)「エサウの孫」です。エサウとヤコブは和解を果たしましたが、エサウは共に生きることはせず、エドムという国を作ります。そして子孫には過ちに対する反省や和解より、憎悪の種が残り、アマレク人はイスラエルを滅ぼそうと長年狙っていたのです。憎しみは次世代に残してならないもの。

この戦いにおいて、モーセが手をあげて祈り、アロンとホルがその手を支えたとあります。また次世代を担うヨシュアが最初に登場します。ふたつの世代が力を合わせて戦う「集結地点」になったのが、勝利ののちに祭壇を築き「ヤハウエ・ニシ」と呼んだ場所です。この「旗」とは何を現わしていたのでしょうか？